

ワールドワイド携帯電話四半期動向

2015年11月11日報告

2015年3Qの世界の携帯電話市場概況

加入者数推移

前期4-6月は一部の国でユーザ整理を実施したことから新規加入件数を大幅に減らしたが、3Qは5,000万件と通常の新規加入ベースに戻した。

LTEが急速に進み3Qでは新規加入件数が1.5億件に増加、2015年末には累積10億件の大台越えが確実にになった。ただグローバルの新規加入件数は鈍化傾向を強めており、2015年の年間新規加入件数は前年の2.6億件から2億件まで減る見通しである。

端末需要

3Qの販売台数は前期比6%増に留まった。端末の内Smart Phoneは前期並み伸び率で推移したが、フィーチャーフォンは一転プラスに転じ、3Qでは前期比12%の大幅増になった。

フィーチャーフォンで出荷を伸ばしたのはSamsung、Microsoft、TCL各社で、Samsungはシェア拡大へマーケティング戦略を変更、Microsoftは4QでWindows 10対応OSモデルを投入することから3Qを繋ぎとしてのフィーチャーフォンの出荷拡大になる。2社ともあくまで収益性の高いSmart Phoneのシェア拡大を目指しており、4Qではフィーチャーフォンの出荷レベルを引き下げる見通しである。

中国メーカーのSmart Phone販売は弱含みで推移した。中国国内の需要環境悪化もありHuawei、Xiaomi、ZTE、Coolpad各社は軒並み前期の販売台数を下回った。特にXiaomiは初めて前年同期の販売台数を下回り鈍化傾向が鮮明になった。国内市場ではHuaweiのほかOPPO、Vivo、Meizuが追い上げ、インドなど海外展開も突破口になっておらず、やや閉塞感が漂い始めている。

クリスマスシーズンを控えた季節性から4Qの販売台数は2桁の伸びを予想、弊社は前期比10%増を見込んだ。4QをリードするのはAppleで出荷台数ベースは3Q対比1.5倍を予想した。Huaweiも内外需の好環境を背景に前期比27%増を見込み、Samsung、Apple、Microsoftに続き年間1億台のグループ入りを果たすものとみられる。

2015年3Q(7-9月)調査結果 目次

1	2015年3Q(2015年7-9月)結果の要約	3	7.4.	年間Smart Phone販売台数推移	28
2	10-12月の出荷、販売見通し	4	7.5.	2015年3Qフィーチャーフォン販売動向	29
3	地域別累積加入推移(四半期別)	6	7.6.	年間フィーチャーフォン販売台数推移	30
4	方式別加入推移(四半期別)	9	8	主要メーカーの2015年3Q動向	31
5	年間加入推移	12	8.1.	Samsung	31
5.1.	地域別	12	8.2.	Apple	33
5.2.	方式別	13	8.3.	Microsoft(Nokia)	35
6	主要オペレータ加入者推移	14	8.4.	LG	36
6.1.	アジア	14	8.5.	ソニーモバイル	37
6.2.	西欧	15	8.6.	HTC	38
6.3.	東欧	16	8.7.	Huawei	39
6.4.	北米	17	8.8.	Xiaomi	39
6.5.	中南米	18	8.1.	Lenovo	40
6.6.	中東/アフリカ(アフリカ)	19	8.2.	ZTE、Coolpad、Meizu	41
6.7.	主要オペレータ加入者数推移の世界全体に占める推定比率	20	8.3.	インド端末生産の拡大	42
7	端末販売動向推移	21	8.4.	その他メーカー(Blackberry、富士通)	43
7.1.	2015年3Q端末販売動向	21	9	Mediatek動向	44
7.2.	年間全端末販売台数推移(フィーチャーフォン含む)	25	10	端末各社の出荷計画	45
7.3.	2015年3Q Smart Phone販売動向	26			